



よめらる八相がたうとこれ無常とひんぶる

四 應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法
應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法
應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法

五 應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法

應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法
應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法
應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法

六 應以梵王身得度者即現梵王身而為說法

應以梵王身得度者即現梵王身而為說法
應以梵王身得度者即現梵王身而為說法
應以梵王身得度者即現梵王身而為說法

七 應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法

應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法
應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法
應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法

八 應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

應以自在天身得度者即現自在天身而為說法
應以自在天身得度者即現自在天身而為說法
應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

九 應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法

應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法
應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法
應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法

十 應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

法

十

應以毘沙門身得度者即現毗沙門身而為說法

應以小王身得度者即現小王身而為說法

應以長者身得度者即現長者身而為

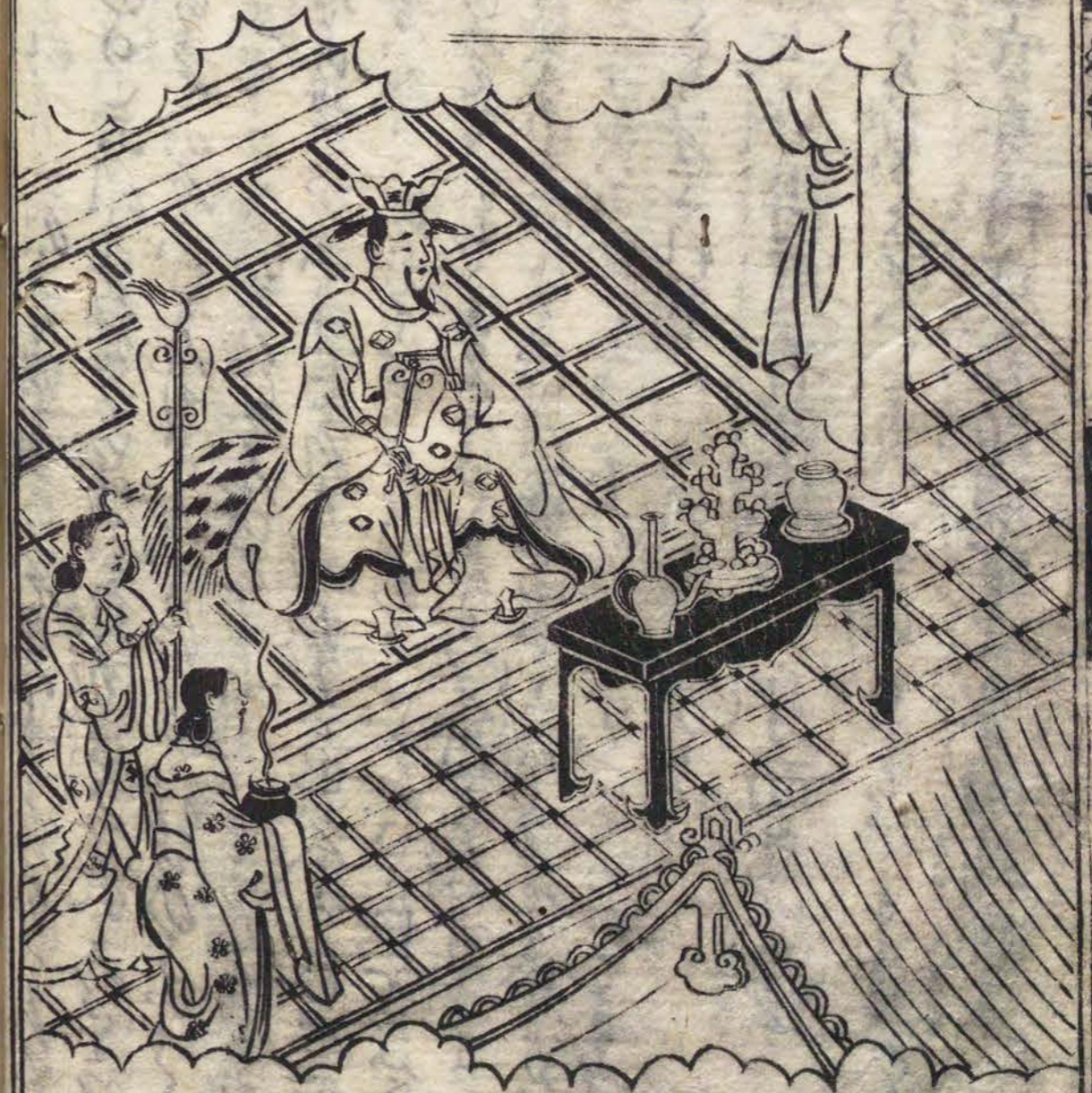
說法

Handwritten commentary in vertical columns, starting with 'このまのまの...'

應以居士身得度者即現居士身而為說法

應以宰官身得度者即現宰官身而為說法

Handwritten commentary in vertical columns, starting with 'またこのまのまの...'



れまゝりてつゝさりうらぬたぐほいりてん

六九

應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而為說法

婆羅門の身を得て度す者即ち現婆羅門の身にして法を説くべし
此の經に婆羅門の身を得て度す者即ち現婆羅門の身にして法を説くべしと云ふは
利利此を婆羅門の身にして法を説くべしと云ふは利利此を婆羅門の身にして法を説くべしと云ふは

七九

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而為說法

比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身を得て度す者即ち現比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身にして法を説くべし
此の經に比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身を得て度す者即ち現比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身にして法を説くべしと云ふは
利利此を比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身にして法を説くべしと云ふは利利此を比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身にして法を説くべしと云ふは

一卅

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦女身而為說法

長者居士宰官婆羅門婦女の身を得て度す者即ち現婦女の身にして法を説くべし
此の經に長者居士宰官婆羅門婦女の身を得て度す者即ち現婦女の身にして法を説くべしと云ふは
利利此を長者居士宰官婆羅門婦女の身にして法を説くべしと云ふは

二卅

應以童男童女身得度者即現童男童女身而為說法

童男童女の身を得て度す者即ち現童男童女の身にして法を説くべし
此の經に童男童女の身を得て度す者即ち現童男童女の身にして法を説くべしと云ふは
利利此を童男童女の身にして法を説くべしと云ふは

三卅

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅跋舍那羅摩睺

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅跋舍那羅摩睺



りて人の時を法世儀法とてたせりて人の時を常の法とせりてや
えんの時をえんを法とせりて法に止息修習の法といふ人の時を
ゆんを法とせりて法に修習の時を門脚統力とせりて法に修習の時
時をわいせや法に修習の時を法に修習の時を法に修習の時を
法に修習の時を法に修習の時を法に修習の時を法に修習の時を
法に修習の時を法に修習の時を法に修習の時を法に修習の時を

種形遊諸國土度脫衆生

いん八善業は是すなり別とてす
いして是とていふに如是功德とい

無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種
種形遊諸國土度脫衆生
いん八善業は是すなり別とてす
いして是とていふに如是功德とい

しりや。いん八善業は是すなり別とてす
いして是とていふに如是功德とい
いん八善業は是すなり別とてす
いして是とていふに如是功德とい



らんぬゆふふと多んぬらるる人のびくちを多んぬのちんとおこし
れくしつたゆふは海界流してたかたをれく我ふはけけのけけ
おんいあり実名及んぬん念不空を徳徳強み若くはんんと
えんえまつりわつひらるるまうとさくめをれえの若とめを
ゆふのちなり

三十

假使興害意推落大火坑 念彼觀音力火坑變成池

四十

或漂流巨海龍魚諸鬼難 念彼觀音力波浪不能沒

五十

或在須彌峯為人所推墮 念彼觀音力如自虛空住

六十

或被惡人逐墮落金剛山 念彼觀音力不能損一毛

七十

或值怨賊統各執刀加害 念彼觀音力咸即起慈心

ひんぬのちなり
念不空を徳徳強み若くはんんと
えんえまつりわつひらるるまうとさくめをれえの若とめを
ゆふのちなり

らんぬゆふふと多んぬらるる人のびくちを多んぬのちんとおこし
れくしつたゆふは海界流してたかたをれく我ふはけけのけけ
おんいあり実名及んぬん念不空を徳徳強み若くはんんと
えんえまつりわつひらるるまうとさくめをれえの若とめを
ゆふのちなり



ひりんはまへをのれけまらんののれけとよめとあがり

或囚禁枷鎖手足被桎械 念彼觀音力 釋然得解脫

ひりんはまへのをのれけ枷鎖のありとあめらふかより

咒咀諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

ひりんのやんをのりひのひをぞくこととてらんす御所らん

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害

ひりんまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

若惡獸圍繞 利牙爪可怖 念彼觀音力 疾走無邊方

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

三 蛇虵及蝮蠍 氣毒烟火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

四 雲雷鼓剗半電 降雹澍大雨 念彼觀音力 應時得消散

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

五 衆生被因厄 無量苦逼身 觀音妙智力 能救世間苦

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

六 具足神通力 廣修智方便 十方諸國土 無刹不現身

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ

ひりんはまへのをのれけまらんのとてらとりのんとあめらふ



佛説是普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等

阿耨多羅三藐三菩提心

此品之要... 阿耨多羅三藐三菩提心... 佛説是普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等

此品之要... 阿耨多羅三藐三菩提心... 佛説是普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等

○毎月十八日に念ふとんの法名を... 阿耨多羅三藐三菩提心

又念ふとんは毎月... 阿耨多羅三藐三菩提心

- 正月朔日 百回よびよ
- 二月朔日 百回よびよ
- 三月朔日 九十回よびよ
- 三月十八日 又十日よびよ
- 六月十八日 百回よびよ
- 六月十八日 又十日よびよ
- 七月十日 阿耨多羅三藐三菩提心
- 七月十日 又十日よびよ
- 九月廿日 六回よびよ
- 十月廿日 千回よびよ
- 十一月七日 六回よびよ
- 十一月廿日 又十日よびよ

